

南極観測・海洋地球科学技術分野の概算要求の主要課題

19年度概算要求額：60,037百万円
 (18年度予算額)：46,646百万円
 ※運営費交付金中の推計額を含む

「しらせ」後継船の建造

背景

防衛庁が実施した老齢船舶調査において「平成20年4月までに除籍が適当」と指摘 ⇒ **平成19年度(船齢25年)で退役**

現状

平成17年度に5年国債で建造を開始し、19年度は3年目。



今後の課題

平成20年度は輸送の空白期間 ⇒ 代替輸送手段を検討

ヘリコプター後継機(2機)の製造

背景

輸送用ヘリコプター(3機)は**平成19年度**で耐用飛行時間満了 ⇒ **除籍**

現状

1号機は16年度から4年国債で製造。4年目
 2号機は18年度から4年国債で製造。2年目



今後の課題

- 操縦士と整備士の養成
- 整備用部品の整備(後継船に搭載)

	16年度 (22年)	17年度 (23年)	18年度 (24年)	19年度 (25年)	20年度	21年度	22年度
しらせ 運航計画 (船齢)					→(退役)		
後継船 建造計画	設計		建造		代替手段		就役
ヘリコプター (1号機) 製造計画		製造		試験等	訓練		就役
ヘリコプター (2号機) 製造計画			製造			訓練	就役

国家基幹技術

深海地球ドリリング計画

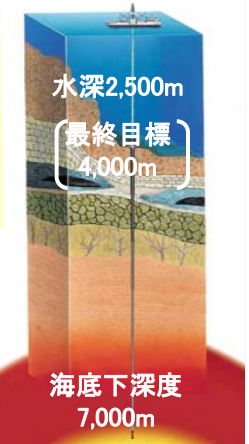
概要

人類未踏のマントルへの到達を目指す『**地球深部探査船 ちきゅう**』を開発し、**統合国際深海掘削計画(IODP)**における国際運用に供することにより、地球環境変動、地球内部構造、地殻内生命圏等の解明を目的とした研究開発を推進

現状

平成17年7月に完成し、試験運用を開始。平成18年8月から下北半島沖で掘削試験を実施。

地球深部探査船「ちきゅう」



今後の課題

平成19年度は、東南海地震の発生メカニズムの解明を目指した熊野灘の掘削(国際運用)を実施するための運用経費確保が必要。

次世代型深海探査技術の開発



従来調査が困難であった海域を含む海中及び海底の調査を精密・広域に行うために必要な**「次世代型巡航探査機技術」「大深度高機能無人探査機技術」**の開発に取り組む。

平成19年度:要素技術開発
 (～平成22年度)